

## ミニトマト農薬リスト一覧

※袋やビンに記載されている使用方法、回数を必ず守ること。

※記載のない病害虫や薬剤、使用方法については、事前にJ A・農林総合事務所に相談すること。

※新しく登録された農薬(赤字で記載)については、事前にJ A・農林総合事務所に相談すること。

### 1. 殺虫剤

【令和3年4月1日現在】

対象病害虫	薬 剤 名	安全使用基準			備 考
		希釈倍率	収穫前日数 (～まで)	使用回数 (以内)	
ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	15～20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	1g/株	育苗期	合計1回	株元処理
ハモグリバエ類 アザミウマ類		1～2g/株	定植時		植穴処理土壌混和
コナジラミ類 ハモグリバエ類	スタークル粒剤	1～2g/株	育苗期	合計1回	株元散布
アブラムシ類		1g/株	定植時		植穴土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	5,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a
アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a
アブラムシ類 コナジラミ類	サンクリスタル乳剤 注1)	300倍	前日	—	150～500ℓ/10a
トマトサビダニ ハダニ類 うどんこ病		300～600倍			
アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤 注2)	2,000～ 4,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a
ハモグリバエ類		2,000倍			
オオタバコガ ミカンキロアザミウマ ナミハダニ トマトサビダニ	コテツフロアブル	2,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a
オオタバコガ トマトサビダニ コナジラミ類 ハモグリバエ類	アフアーム乳剤	2,000倍	前日	5回	100～300ℓ/10a
アオムシ コナガ	エスマルクDF 注3)	1,000～ 2,000倍	発生初期 但し収穫前日	—	100～300ℓ/10a ※若齢幼虫期に散布
ヨトウムシ オオタバコガ		1,000倍			

## 2. 殺菌剤

対象病害虫	薬 剤 名	安全使用基準			備 考
		希釈倍率	収穫前日数 (～まで)	使用回数 (以内)	
灰色かび病 葉かび病	ベルコート水和剤	6,000倍	前日	2回	100～300ℓ/10a 【予防剤】
菌核病	ゲッター水和剤	1,500倍	前日	3回	100～300ℓ/10a 【予防・治療剤】
灰色かび病 斑点病 輪紋病	ロブラール水和剤	1,000～1500倍 1,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a 【予防剤】
疫病 輪紋病 葉かび病 炭疽病 灰色かび病 すすかび病 うどんこ病 斑点病 褐色輪紋病	ダコニール1000	1,000倍	前日	2回	100～300ℓ/10a 【予防剤】
灰色かび病 葉かび病 すすかび病 斑点病 菌核病	アフエツフロアブル	2,000倍 2,000～4,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a 【予防剤】
うどんこ病					
葉かび病 灰色かび病 すすかび病 うどんこ病 菌核病	シグナムWDG	2,000倍	前日	2回	100～300ℓ/10a 【予防・治療剤】
葉かび病 すすかび病	トリフミン水和剤	3,000～5000倍 3,000倍	前日	5回	100～300ℓ/10a 【予防・治療剤】
うどんこ病 灰色かび病 葉かび病	カリグリーン	800～1,000倍 800倍	前日	—	100～300ℓ/10a ※発生初期に散布 【治療剤】
灰色かび病	ボトピカ水和剤 注4)	2,000～ 4,000倍	発病前～ 発病初期	—	100～300ℓ/10a 【予防剤】
	ボトキラー水和剤 注4)	1,000倍	発病前～ 発病初期	—	150～300ℓ/10a 【予防剤】
輪紋病 疫病	Zボルドー 注5)	400～600倍 500倍	—	—	100～300ℓ/10a 【予防剤】
すすかび病					

※「すすかび病」は葉かび病に登録のある薬剤も含めてローテーション防除を心がける。

- 注1) サンクリスタル乳剤は、対象害虫の気門を覆うことで窒息死させる薬剤のため、かけムラがないよう注意する。残効がないため7日程度の間隔で2回以上散布する。また、展着性が優れるため展着剤を加用する必要はない。
- 注2) ダントツ水溶剤は、カメムシ目、ハエ目、コウチュウ目、チョウ目、アザミウマ目、バッタ目の幅広い害虫に対して高い防除効果を発揮する。育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内。
- 注3) エスマルクDFは、対象害虫の若齢幼虫期に時期を失せず散布する。薬剤が付着した植物体を対象害虫が食害すると、2～3時間で摂食活動を停止するが、死に至るには2～3日を要する。野菜類で登録あり。
- 注4) ボトピカ水和剤・ボトキラー水和剤は、保護作用による予防効果で対象病害を抑制するため、薬剤散布は発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保される施設内で使用する。野菜類で登録あり。
- 注5) Zボルドーは果実が汚れるため、使用時期に注意する（展着剤：ブレイクスルーの使用により汚れの軽減が可能）。
- ※ 種子消毒、育苗期の農薬使用回数もカウントされるので注意する。
- ※ 同一薬剤の連用を避けること。
- ※ シグナムWDGは、カンタスドライフロアブルと同一成分を含むので、散布回数などに注意する。